



別所だより

横浜市立別所小学校 令和6年1月22日発行



年の初めに

校長 大島 宏二

穏やかな日差しの中、2024年が始まりました。皆様もよいお正月を迎えられましたでしょうか。

私にとっての正月の楽しみの1つは、年賀状です。まだ今ほどスマートフォンなどでのメールやメッセージアプリ等が普及していなかった頃、住所のやり取りを交わした友人や職場の仲間、かつて学級担任をしていた当時の教え子たちから来る年賀状の多くは、1年に1回の近況報告の場になっています。

そのように細く長くつながっていた私が初任校で初めて6年担任をした教え子たちと、昨年秋に25年以上ぶりに再会する機会に恵まれました。二十歳の成人式を終えた子どもたちと初めて一緒にお酒を飲んで以来の対面でした。今回集まったメンバーは、それぞれ悩みや苦勞を抱えながらも、海外勤務で世界を飛び回っていたり、子育てをしながら会社で着実にキャリアを積んでいたりと、真面目に自営業を営んでいたりと、当時の小学校で今は親としてPTA役員でかかわっていたり、懸命に子育てに励んでいたりと、それぞれが自分の人生をしっかりと歩んでいる様子に安堵しました。

当時の卒業アルバムを持参してきた者がいて、懐かしい写真を見ながら「あの時はこんなことをしたよね」「あんな所にも連れて行ってもらったよね」「この子が先生に怒られていた場面を今でも覚えている」など、とりとめのない話をみんなが笑顔でしてくれました。そして、当時のクラスの仲間たちのことを、「個性の強い集まりだったからこそ楽しかった」「みんなそれぞれがいい味を出していたよね」と、「みんなちがって、みんないい」を体現するクラスだったと認識してくれていたのが、教師冥利に尽きました。

何十年経っても年賀状をやりとりしたり、再会したりする関係にある相手に共通するのは、関わった期間の長短ではなく、どれだけ深い関わりをしたかということではないかと思います。

今年も別所小学校の教職員には、子どもたちから末永くつながりを持ち続けたいと思われるような関わりができるよう、子どもたちに寄り添い、熱い思いをもって教育活動に取り組んでほしいと思っています。

最後になりますが、いただいた年賀状の中に素敵な一文を見つけました。今年も皆様にとりまして、

“たくさんのしあわせが 花ひらく一年になりますように・・・”

